



## 羅針盤

# 令和6年能登半島地震 全老健災害相互支援プロジェクト 「DMSP」発動

田中志子

全老健 副会長

はじめに、2024年1月1日に起きた能登半島地震の犠牲になられた方々に、心から哀悼の意を表すとともに、被災された方々へ深くお見舞い申し上げます。

能登地域だけでなく広範囲の被害をもたらしたこの地震で、家屋倒壊、ライフラインの断絶、東日本大震災以来の津波による被害まで、大変な被災状況が時間を追うごとに明らかになりました。

全老健では、東憲太郎会長の号令のもと、即日、災害対策本部を設置し、「全老健災害相互支援プロジェクト『DMSP』」を発動しました。「DMSP」は、管理運営委員会安全推進部会が所管するもので、東会長が本部長、私は副本部長として本プロジェクトに携わっています。

発災翌日の1月2日に石川県支部、富山県支部、新潟県支部、福井県支部と連携して各県すべての会員施設に安否確認の連絡を開始しました。そして、1月3日には被害状況と必要な物資を洗い出し、厚生労働省および石川県と情報を共有しました。

この時点で、石川県内の4施設とは連絡がとれず気がかりでしたが、状況を確認できた施設においては人的な被害がなかったことに、ひとまず安堵したところです。

石川県以外の施設では大きな被害がなかったことを確認したため、以降は、石川県内の施設についての情報収集を行いました。しかし、後に、新潟県における液化化現象の情報が得られたため、追加にて調査を実施しました。

被害は、建物や設備の損傷、ライフラインの不通等、非常に深刻なものでした。また、降雪や道路の寸断等による物資の不足や、暖房が使えないことによる冷え、職員の住宅被害や連続勤務による疲労等、想像を絶する不安やご苦労があったこと、心痛に堪えません。

1月4日には全老健の事務局員2名が少々の物資を携えて現地へ出向き、連絡が途絶えていた施設を中心に被害情報の収集等を行いました。そして、金沢市の石川県支部事務局を訪れ、被災施設や今後の支援に

ついて情報交換し、支援物資の1次拠点を金沢市の「金沢春日ケアセンター」に、2次拠点を羽咋市の「有縁の荘」に設置することを決定し、直ちに「DMSPプロジェクトC：支援物資」を始動しました。

これらの迅速な活動により、すぐに支援物資の拠点とルートが確立され、1月4日に東海・北陸ブロックの会員施設あてに、緊急支援物資についてのお願いを发出了しました。

また、「DMSPプロジェクトA：要介護高齢者の受入」、「DMSPプロジェクトB：介護職員等の派遣」についても、厚生労働省や石川県と連携して遂行しているところです。全国の多くの施設からご協力いただき、心より御礼申し上げます。

今回、私が痛切に感じたことは、全老健の対応の速さと結束です。発災とほぼ同時に災害対策本部が設置され、「DMSP」が動き出しました。そして、被災地域の被害状況を確認した後、迅速に現地入りして、支部事務局と今後の支援体制を構築しました。

これは、これまでの災害の経験を基に組織された「DMSP」が円滑に機能したことに尽きます。この体制こそが、全老健の最も誇れることではないかと改めて感じたところです。

現在、全老健では、「DMSPプロジェクトA・B・C」に加え、被災施設および職員を支援するために、支援金を募集しています。ぜひ、皆さまの温かいご支援をよろしくお願いいたします。

大きな天災が起こるたびに、医療や介護を止めることなく事業活動を継続できるように、BCP（業務継続計画）を策定することの大切さを痛感しています。また、地域によっては、地震だけでなく河川の氾濫や活火山の噴火といった災害を常に視野に入れて活動する必要があります。転ばぬ先の杖はいつもしっかりと握っていただかなければならないと思う気持ちが日々募っています。

最後になりましたが、能登半島地震の被災施設の皆さまに改めてお見舞いを申し上げますとともに、1日も早い復興を祈ってやみません。